



新年のご挨拶

大分大学医学部附属病院長 野口 隆之

平成26年、新年おめでとうございます。開院30年の節目を経た今、本院では再整備計画が進められ、平成28年度の完成に向けて順次工事が進められているところです。

開院した昭和56年当時とは社会環境は大きく異なり、大分県の人口は減少の一途をたどり、将来的には現在121万人の人口が100万人程度になると予想されています。再整備計画に伴って人口動態や疾病構造の変化を調査しましたが、人口減少と高齢化のために、現状のように高度医療を全県域で維持することが難しい時代が到来すると考えられます。そのため、高速道路のインターチェンジに近く、全県下からのアクセスに優れた本院の立地条件を活かし、高度医療や高度救命救急については全県域に対応していくための再整備を進めています。

高度救命救急センターは、3次救急医療を全県域で担う中心センターとしてドクターヘリやドクターカーを有効に活用し、短時間での搬送が可能になりました。

また、内視鏡手術や心臓・大血管手術のためのハイブリッド型の手術室、急性期医療のための血液浄化センターなどの設置、充実も進められています。P E Tと小型サイクロトロンの設置はがんだけでなく、今後ますます多くなる認知症の診断や治療にも役立てられます。

患者さんのニーズにお答えするため、個室の増室や病室の拡充のほか、内科や外科の講座を再編し、どなたにも分かりやすい明確な専門診療科目を設けることで、これまで以上に患者さん本意の医療を目指しております。

高度医療を分散させて県内の複数施設で行うのではなく、本院に集約させていくには、より一層の地域間連携が必要になります。県内唯一の大学病院として10年単位での教育と研究と診療で地域医療を支え、整えていくつもりです。

患者さんの要望に応え、大分県に必要不可欠な存在として皆様のお役に立つ大学病院となることが我々のミッションです。この度の再整備によってこれまで以上に地域のニーズや特性を活かした医育研究機関・特定機能病院として充実・発展していく所存です。これからもご協力とご支援を頂きますようお願い申し上げます。

大分大学医学部附属病院の理念等について

【理念】

本院は、

「患者本位の最良の医療」を基本理念とする。さらに、高度先進医療の開発と提供をおこして、倫理観豊かな医療人を育成し、地域社会の福祉に貢献する。

【基本方針】

本院は、

- 一 患者本位の医療を実践する。
- 一 医療の質及び医療の安全性の向上に努める。
- 一 医学、医療の発展と地域医療の向上に寄与する。
- 一 教育、研究、研修の充実を図る。
- 一 病院の管理・運営の合理化を推進する。

【患者さんの権利】

- ・個人の尊厳が尊重され、良質な医療を公平に受けることができます。
- ・病気、検査、治療などについて、十分な説明を受け、理解した後、治療方法などを自らの意思で同意又は拒否を選択することができます。
- ・自分の診療記録について、本院の規則に則って情報の提供を求めることができます。
- ・診療における個人情報が守られ、プライバシーが最大限尊重されます。

- ・教育実習及び研究の協力者となることを断ることができます。
- ・医療行為の選択にあたっては、他の医療機関を選択することができます。
- ・診断や治療方法について、他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求めるることができます。
- ・身体の不自由な方、外国人の方にも、できる限りの支援をいたします。

【患者さんにまもっていただくこと】

1. 良質な医療を実現するため、医療従事者に対し、患者さん自身の健康の情報を詳しく正確に伝えてください。
2. 納得できる医療を受けるために、検査や治療の内容を十分理解し、不明な点については十分質問し、合意の上でお受けください。
3. 病院内・敷地内での喫煙は禁止されています。
4. 飲酒や他の方々への迷惑行為は、禁止されています。
5. 携帯電話の使用制限をしている場所での使用はご遠慮ください。
6. 病院内の設備や備品は、大切にご使用くださるようお願いします。破損、紛失などの場合は弁償していただくことがあります。
7. 暴力、暴言、セクシャルハラスメント、ストーカー行為があった場合は警察に通報することがあります。
8. 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。
9. 入院時は、
 - 1) 事故防止のため多額の現金や貴重品は、持ち込まないようお願いします。
 - 2) パソコン・DVD・ラジカセ等の電気製品は、持ち込まないようお願いします。
 - 3) 当院での駐車場は、外来患者専用となっておりますので、入院中は駐車場を利用できません。
10. 入院中は、
 - 1) 病院内ではリストバンドを着用してください。
 - 2) 外出・外泊をする場合は、医師・看護師長による外出・外泊許可証をもらってください。

教授就任挨拶

神経内科学講座

松 原 悅 朗



平成25年10月1日より、神経内科学講座の教授に就任しました松原悦朗と申します。神経内科診療科長を併任しております。私は昭和60年に旭川医科大学を卒業し、ここ大分大学に至るまで、群馬大学・米国ニューヨーク大学・岡山大学・国立長寿医療センター研究所・弘前大学で研鑽を積んだため、全国では「さすらいの神経内科医」と呼ばれているようです。

神経内科はどんな科なのですか？よく受ける質問です。簡単に言えば、「原因が体にあり、症状も体に出る」患者さんを診療する科です。「原因が心にあり、症状も心に出る」精神科と「原因が心にあるにもかかわらず症状が体にでる」心療内科とは明確に対象となる患者さんが異なります。対象となる疾患は、頭痛・めまい・しびれといった「ありふれた」疾患から、アルツハイマー病などの認知症疾患や脳卒中など超高齢化社会の中で急増している疾患、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症といった神経変性疾患、多発性硬化症や重症筋無力症などの自己免疫性神経筋疾患まで多彩で、頭のてっぺんからつま先までの診療を担当します。

私の主な専門領域は認知症です。近年、物忘れのため日常生活に支障をきたす認知症の患者数が飛躍的に増加し、物忘れがあってもまだ日常生活に支障のない認知症の予備軍の高齢者（軽度認知障害と呼びます）もほぼ同数控えており、認知症を取り巻く社会整備やその予防・治療への取り組みが急務とされています。認知症は、「治る」認知症と、「治したい」認知症に分けられます。「治る認知症」が存在するなんて驚きかもしれません、正確には「予防する」「早めに手をうつ」ことで「先を制する」治療の対象となる方々の認知症です。「治したい」認知症（アルツハイマー病など）にもこの考えが定着しつつあります。「治したい」認知症の代表であるアルツハイマー病の画期的な診断・治療法も開発してまいりました。自ら開発した「先を制する」治療法（本邦初の純日本製注射薬で世界的にも注目されています）の臨床治験を開始間近で、世界で既にその検証が開始されている「先を制する」最先端治療にも日本からのコアメンバーとして参加する予定です。こうした私の経験を生かして、先進医療から地域医療まで、安心してここ大分ですべてが完結できる神経内科医療を各科・地域病院と協力して展開していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

シリーズ

病院再整備

【リハビリテーション部】

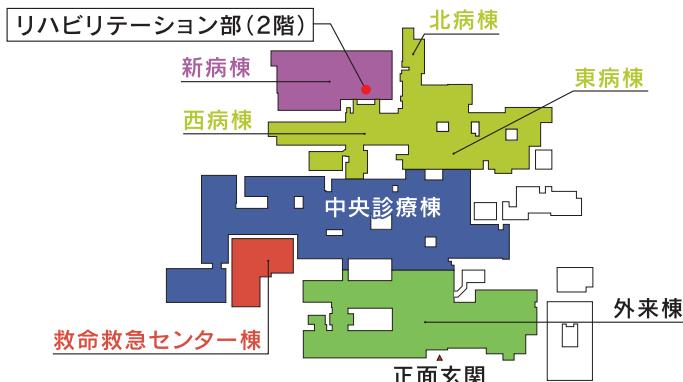
今回は、新病棟2階へ移転したリハビリテーション部を紹介します。

正面玄関からは、2階西病棟を経由し連絡通路を通って新病棟のエレベーター前に位置します。

面積は344m²で、旧リハビリテーション部の約1.4倍の面積となり、質の高いリハビリを提供するためのすばらしい施設が確保できました。

医師3名、看護師1名、理学療法士8名、作業療法士5名、言語聴覚士3名、クラーク1名が担当しています。

今後は、ますます患者さんのために豊富で満足のいくリハビリを提供し、早期退院、社会復帰に貢献したいとスタッフ一同考えています。



リハビリテーション部位置図



プラットホーム10台、ベッド8台が設置され、患者さんのADL(日常生活動作)向上にむけたリハビリを行います。



10m歩行ルートを2か所用意し、歩行の改善を目指しリハビリを行います。



吊り下げ式トレッドミルを脳卒中、脊髄損傷、その他の歩行できない患者さんのリハビリに使用します。



失語症の訓練を行う言語聴覚室(完全防音室)が2つあり、言語聴覚士3名が治療にあたっています。



水中トレッドミルを利用して、下肢に負担をかけずに歩行練習ができます。

「小児科クリスマス会」について

今年度も4階西小児科病棟では、他病棟の入院中の子どもたちにも参加を呼びかけ、病棟の面会室でクリスマス会を開催しました。1ヶ月前には、ボランティアさんと子どもたちと一緒にクリスマスツリーの飾り付けを行いました。また子どもたちがクリスマスカードやポスターを、気持ちを込めて書きクリスマスのムードを高めてくれました。当日は、泉教授から子どもたちへお話のプレゼントがあり、みんな真剣に聞いていました。そして医師、看護師、看護学生の寸劇や歌の出し物やスターバックスの皆さんによる子どもたち参加の楽しいゲームがありました。子どもたちは、劇に大笑いしたり大きな声でクリスマスソングを歌い楽しいひと時を過ごしました。最後に入院治療に頑張っているご褒美に教授サンタさんからプレゼントをもらい大喜びでした。今後も子どもたちやご家族が辛い入院生活の中でもほっとするような時間を大切にし、「また頑張ろう」という思いを持ってもらえるようなイベントを企画していきたいと考えています。

(文責 4西病棟 鶯尾美知子)



「ふれあいコンサート」について

本院では、つらい治療や長期の入院生活を頑張っている患者さんに少しでも楽しんでもらおうと、年2回、7月と12月に院内外来ホールで「ふれあいコンサート」を開催しています。

今回、平成25年12月17日に開催しました。外来ホールにイルミネーション、クリスマスツリーを設置し会場に季節感を取り入れました。学生・職員が、患者さんの車椅子搬送のボランティアを行い、学生ジャズサークル、コーラス及び職員を含む社会人の金管楽器五重奏団の3組が出演し、幅広い年代の方に馴染みのある曲やクリスマスの曲などを演奏し、和やかな雰囲気に包まれ終了しました。

(文責 病院企画係)



『大分県医療情報ネット』の紹介

大分県医療情報ネットとは：参加施設間をインターネット回線で結び、受診歴、お薬や注射の処方内容、血液検査結果、画像および画像レポート、退院サマリ、診療情報提供書などの診療情報を共有し、紹介・逆紹介、セカンドオピニオン、検査外来などに活用できるシステムです。診療所や小規模病院は、大学病院や中核病院の開示サーバを閲覧できますし、大学病院に設置している診療所用サーバを利用して医療文書等を開示することもできます。

利用するためには：参加医療機関は、医療機関および利用者の事前登録を済ませておく必要があります。診療情報を共有したい患者さんのカルテ番号（ID）を紐付けする必要がありますので双方の医療機関にIDがなければなりません。情報開示に患者さんの同意を得ることも必要です。

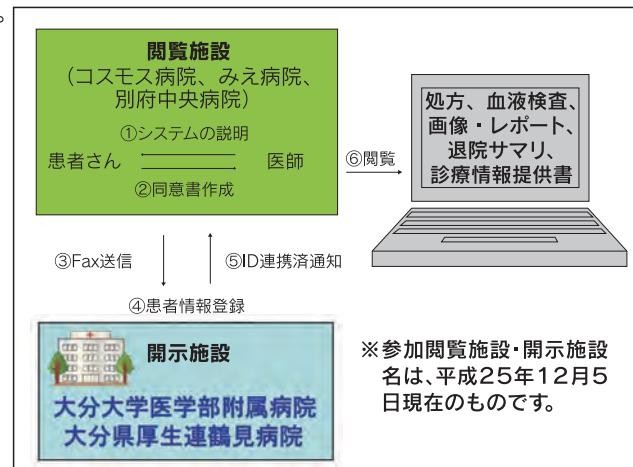
同意取得から閲覧までの手順は（図）：閲覧施設の医師が開示施設の患者情報を閲覧して診療することの説明を行ない、患者さんの同意が得られたら開示施設に連絡します。開示施設がIDの紐付けを終えると閲覧施設から閲覧可能となります。

個人情報保護は：高度の暗号化、特定の許可された端末以外からの閲覧不可、患者さんの同意が得られない医療機関には非開示等の対策をとっています。

費用は：患者さんやご家族、閲覧施設に費用の負担はありません。

本システムの説明、関連資料は本院HPにあります。問い合わせは大分県医療情報ネット事務局097-586-5490までお願いします。

（文責 医療情報部内 大分県医療情報ネット事務局 三宅秀敏）



あなたの声を待っております。良い病院になるために

患者さんの「声」は要約して載せておりますのでご了承願います。



声

売店の書籍を見ることを付添いで楽しみにしてきました。コンビニが入ることになって、もしかしたら書籍が減るかもと聞いてショックです。

病院ならではと身体や病に関する品揃えでしたのに・・・これが無くなったら寂しいヒントがもらえたり、力をもらったり、コンビニではどこでも一緒です。是非一考をお願いいたします。
(外来、女性)

回答

売店（仁心会）の書籍に興味を持って頂きありがとうございます。病院再整備の改修工事を行っており、売店の場所は移動しますが、この書籍コーナーは存続させるつもりです。今後も安心してご利用下さい。

声

- 糖尿病患者は、同室にして頂けるとありがたい（同室の見舞客が食べ物を持ちこむ為。また、夜中に食べる人もいる為。）。
- 長時間の見舞客は食堂へ行って欲しい。（入院）

回答

糖尿病の患者さんを同室にして欲しいとのご希望についてですが、現在、患者さんの入院日や状態により、病室を決定しています。そのため、同じ疾患の方を同室にすることは現状では困難です。お見舞いの方や患者さんが病室で間食をされたり長時間のお見舞いにより、不快な思いをされていたようで申し訳ありませんでした。看護師から同室の方やお見舞いの方へ協力依頼しますので、お気づきになった時点でお伝えいただければと思います。

（文責 病院長 野口隆之）

大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411(代)

大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

1号から55号までの「かけはし」は、医事相談窓口にありますので、遠慮なくお申し付け下さい。また、医学部附属病院ホームページからもご覧いただけます。

